

合併と岡谷

— 新春座談会 —

◆ 語り合った人たち ◆

今井 隆宏さん

NPO法人維新塾理事長

小池 健蔵さん

イルフプラザ・カルチャーセンター利用者の会会長

戸島 幸雄さん

岡谷市区長会長・間下区長

藤森 一俊さん

岡谷市次世代経営者研究会(NEXT)幹事

矢崎 京子さん

中央通りおかみさん会会長

山田 紀美恵さん

保育園保護者会母の会会長

小口 政博さん 《進行》

新市建設計画案策定小委員会委員長

林 新一郎 市長

新しい年、平成16年(2004年)を迎えました。今年も市民のみなさんが、安心して豊かに、健康に暮らせるまち、住んでみたい、住み続けたいまちを実現できるように、積極的に各種事業を進めてまいります。

岡谷市の抱える最も重要な課題として、市町村合併があります。昨年11月には18歳以上の全市民のみなさんに対し、6市町村合併に対するアンケート調査を行い「賛成」44・3%、「反対」30・5%、「わからない」24・8%という結果となりました。

また、他市町村の住民投票・アンケート結果の状況は、下表のとおりです。諏訪市、下諏訪町は「賛成」が「反対」を上回り、富士見町、原村は「反対」が「賛成」を大きく上回る結果となり、両町村は任意合併協議会から離脱という状況となったことで、今後は岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町の4市町での合併を目指す話し合いを行っていくことになりました。

これら住民アンケート・投票結果も踏まえ、「合併と岡谷」をテーマに新春座談会を行いました。各種団体の代表者7人の方にご出席をお願いし、日ごろ、市町村合併に感じていることや岡谷のまちづくりなど、いろいろな視点から活発に林市長とお話いただきました。

市町村名	投票アンケート	対象者	投票者回答者	投票率回答率(%)	賛成(%)	反対(%)	わからない(%)	無効票無回答
岡谷市	アンケート	46,166	24,581	53.2	44.3	30.5	24.8	0.4
諏訪市	アンケート	42,876	24,966	58.2	51.0	17.0	31.4	0.6
下諏訪町	住民投票	19,491	10,821	55.5	57.3	41.5	—	1.2
富士見町	住民投票	12,924	8,688	67.2	32.3	66.6	—	1.1
原村	アンケート	6,223	5,735	92.2	24.1	63.6	12.0	0.3



市長

諏訪地方の合併は、過去3回気運が高まった経過がありますが、今回の合併は平成13年2月に私が5市町村長を訪ねて、現状のままただ時間が過ぎ去っていくことに危機感を訴え、もう一度一つのテーブルについて合併問題を論議しようというお願いをしました。

その結果、一昨年10月24日に諏訪地域6市町村任意合併協議会が発足し、「新市建設計画案」や「合併の時期」、「合併の方法」等をどのように統一していくか、すり合わせをしてみました。

合併は私の公約でもありますが、国の財政状況や現在の経済情勢から将来を見据えますと、各市町村の財政が健全なうちに足腰の強い行政体をつくり上げて、我々の子どもや孫に残していく責務があると強く感じています。

三位一体の改革は、合併しようとしまいと地方自治体の財政を圧迫することは間違いありません。合併して効率の良い行政体をつくった都市と、合併しなかった行政体とは相当の開きが出てくると予想しています。

11月に行いました合併に対するアンケート調査の結果を公表しましたが、賛成の方が反対の方を上回っています。

反対された方は、「行政サービスが低下する」「住民の声が行政に届かなくなる」などの理由をあげていますが、これらは地域局として現在

ある庁舎を残し、地域審議会がスタートしますので、行政サービスの低下はありません。特に、岡谷は当面3支所・駅前出張所がそのまま残り、身近な問題は今までどおりのサービスを行います。

次のステップの法定合併協議会の設置に向け、関係自治体と早急に協議を進めていきたいと思っています。

合併市民アンケート 結果について

小口さん《進行》

最初に、先に行われました合併に対するアンケート結果を見て、率直にみなさんがどのように感じたか、それぞれのお立場で合併に対するお考えも含めた感想をお聞きたいと思います。

藤森さん

この地域は、30年近く6市町村の合併について議論されてきましたが、今回の合併論議は今までと状況が変わってきていると思います。

個人的には、この地域は必然的に一つになっていかなくはないかと思っています。

アンケート結果は賛成の方が多かったということで、良かったと思っていますが、ちょっと残念だったのは53・2%という約半分の方からの回収率でした。一方、原村のアンケート結果は92・2%で、住民の関心が非常に高いのに驚いています。

これからは、もっと具体的な議論に入っていくと思いますので、市民に対してより詳しい説明等、色々な面からフォローしてもらいたいと思います。

矢崎さん

私もアンケート回収率が53・2%というのが、ちょっと残念です。せめて7割くらいなら良かったと思います。主婦等の話を聞いても、「別に今のままで困ってない」などの意見が多く、切実に困るような状況ではないので、このような結果が出たと思います。

結果を見ると、6市町村合併は無理だと思うので、できるところから合併して、市民のみなさんが結果として、「合併して良かった」「合併して良くなったね」と思われるようにするのが、合併を進めていくのに大切なことだと思います。

確かに、岡谷市という名前が無くなることは、ちょっと寂しい気がしますが、今のままよりも様々な行政サービスの向上、財政基盤が強化されることを主婦等に、分かりやすく情報提供していく必要があると思います。

山田さん

正直言って、合併は難しい問題だと思います。アンケート結果を見ても、「わからない」という回答が約25%ありますが、何となくそう回答した方の気持ちが分かるような気がします。

関心を持っている人たちが、高齢層であったりとか、男性の方であったりとか、限られたみなさんのみとなっているような気がします。

私の周りを見ても、あまり関心がないお母さんが多く、合併する・しない、どちらでも良いという若いお母さんたちは多いと思いますが、これから担っていく若手の年代層に、もっと関心を持ってもらいたいと思います。

これからまちをつくっていくのは、ここに住む住民一人一人だと思いたいですので、みなさんが合併に関心を持って考えていかなければいけないし、また行政も分かりやすい合併論議をしていただきたいと思います。

戸島さん

従来から諏訪は一つと言われてきており、経済性・効率性の面から見ても、合併が必要であると多くの方が考えていると思います。





いまい 隆宏さん

「わからない」ともらえ
る事ができる気がし
ます。この計算式を
当てはめると、賛成
が24%、反対16%、
わからない60%とな
り、結構現実的なよ
うな気がします。

市でも合併説明会
等を行っています。合
併したときの明る
い未来が見えていな
い市民のみなさんが
多いと思いますので、もつと合併に
対するPR等を進めていくことで、
関心も高くなってくると思います。

また、離脱する町村があることは
非常に残念ですが、個人的には諏訪
湖周でまとめやすくなったような気
がします。段階的合併にも拍車がか
かり、その先は案外簡単かもしれな
い気もします。

諏訪地方を象徴する諏訪湖を取り
巻いている行政が、まず一つになり
進めれば良い方向に行くと思います。
このアンケート結果はある意味、
合併に向けてのワンステップだった
と思います。

小池さん
各市町村のアンケート、住民投票
の回収率・投票率を見て、人口の多
い市町村ほど関心が低いのが分か
りました。

人口が少ないほど関心が高い結果
となりましたが、なぜこのような結
果が出たかと考えると、「吸収合併

される」「新しい体
制に不安がある」等
の表れではないかと
思います。

新市の具体的な未
来像が見えてこない
のではないかと、そう
いった意味では、も
つと分かりやすい説
明を市民にするべき
ではないかと思いま
す。

逆を言えば、今の
体制に問題がないと
いうことの裏返しになるかもしれま
せんが、そんなことをアンケート結
果から感じました。

市長
今から67年前に、当時日本一の大
村（人口 昭和5年7万6562人、
昭和10年5万9785人）だった平
野村から町制を飛び越えて、昭和11
年4月1日に市制を施行しました。

平安時代に、この地に勅旨御牧岡
谷牧があり、朝廷に牧馬を献上した
との伝えから、岡谷市という名前を
付けました。平野市でも良かったと
思いますが、あえて新しく岡谷市と
いう名前を付けたことは、将来を考
え近隣の村とわだかまりなく、合併
しやすい体制をつくった先人の知恵
によるものと思います。

岡谷という名前が無くなり寂しい
のは誰しも同じですが、過去の歴史
をさかのぼると、平野村という江戸
時代からの大村が無くなりました。



おぐち まさひろ 政博さん

ですが、原村は常日ごろからコミュ
ニケーションが非常に高く、お隣同
士でアンケートを提出する声かけが
あり、これが92・2%の回答となっ
たと思います。そういう意味では、
岡谷市はやや都会的な隣人関係が進
んでいるのではと思います。この
都会的な近所付き合いの良さ、田
舎の良さを兼ね備えた人間関係をつ
くり、地方都市ならではの良さを、
住民のみなさんとつくっていかなく
ればいけないと思っています。

小口さん《進行》

新市建設計画策定委員会に関係
した立場でアンケート結果を見ます
と、なぜ市民のみなさんは理解して
くれなかったのか残念に思います。

と言うのは、反対の理由として「周
辺部になってさびれてしまう」「住
民サービスが低下して負担が大き
くなってしまふ」などが大きな理由と
なっていますが、委員会でも模索した
のは、こういった市民のみなさんの

過去3回、合併論議が繰り返され、
それぞれ6市町村で異なった事情が
あると思いますが、その都度成立し
ませんでした。今回のアンケート結
果で、一定の方向性が示されたと思
います。分権型合併という、地域に
一定の権限と財源を持たせることに
より、特色ある地域づくりができる
ことが、だんだん理解されてきたこ
とと思います。

人口21万都市を目指して、6市町
村の同時合併が望ましいところとし
たが、今回の結果により離脱する町
村もあることは大変残念です。賛成
されている市町で十分協議してい
たとき、今までの努力が無にならない
よう積極的に段階的合併を進めてい
ただくようお願いしたいと思います。

今井さん

単純にアンケート結果だけ見ます
と、「わからない」という方が24・8
%、しかし回収率53・2%だったと
考えると未回収の47%近くの人は「わ



市内の工業

不安を解決するために、一定の権限を持った地域局を設置して分権型合併というスタイルを考えたいわけです。すべて、中央に集約するのではなく、岡谷局で市民のみなさんは行政サービスを、今まどどおり受けられるし、市民のみなさんへの負担増は当面無いことを訴えてきたわけですが、本当に意外だというところが率直な気持ちです。

もう一つ今回の合併の難しさは、6市町村が今、財政的に困って合併するわけではありません。今、困っていれば市民のみなさんにも比較的理解していただけます。

しかし、今回の合併は10年、20年先に起こり得る困難を、今のうちに解消したいという合併ですので、それを説明するのに苦労しました。

そして、国の財政事情だけを取り上げて、国の押し付けの合併みたいなことを言われますが、諏訪地方は、過去3回合併したい気持ちがありました。その都度、色々な理由で壊れ

てしまいました。機が熟したら合併しようということでした。

また、非常に残念なのが、若い世代が合併に対して関心が薄いということです。若い人ほど合併に対して関心を持って勉強してもらいたいと思います。

少子高齢化により、税金を使う人が多くなり、税金を出す人が少なくなる、これが顕著になってくるのが10年先と言われています。今回の合併がそういう時代に備えて先取りしたいという考えですので、その辺を理解していただきたいと思っています。

また、あらゆる機会を使って情報提供してきたつもりですが、「情報が少ない」という意見が多数あります。今後どういった説明をしていけばみなさんが理解をしてくれるか考えなければいけません。

できるだけみなさんに、分かりやすい言葉・話し方で語りかければ、合併に反対・わからないの8割は賛成になると個人的には思います。

市長

地域局・地域審議会などの運営をご理解いただけず、合併反対という方は大勢いたかと思えます。

情報提供には色々な方法を試みましたが、市民のみなさんは説明不足・情報不足と感じられていた

ようですので、今までやらなかった方法も考えなければと思います。

**合併後に残したい
岡谷の特色は**

小口さん 《進行》

合併の特色の一つに、市町村がそれぞれの特徴のあるまちづくりをしていて、そのまちづくりを一つにまとめることにより、さらに飛躍した夢のあるまちづくりができると思います。

岡谷市が合併していく中で、どこに重点・特色を出していけば良いか、お聞きしたいと思っています。

戸島さん

岡谷市はシルク岡谷と言われた時代があり、先輩に残していただいた遺産・伝統を引き継いで、工業、ものづくりの基本となっています。

このことを大切にして、ものづくりの面で工業の活性化と発展を図っていけばと思います。



お 幸雄さん
と じま 戸島

また、岡谷市には他市町村に類がない区の制度や各種団体の活動が伝統を守りながら、活発に行われています。合併によって、地域コミュニティが衰退しないようにしていきたいと思っています。地域住民が一番心配していることでもあるので、岡谷の特色ということでも残してほしいと思います。

今井さん

平野村の時代は、製糸業が盛んだった時代でありますが、そのころの中央通りの写真などを見ると、原宿の竹下通り並みのすごい人だかりになっています。

これは当時商業も栄えており、岡谷はそれだけ人口があつて活気があり、他市町村からも商いが集まってきたのではないかと思います。

ある意味、工業一辺倒になりすぎると、まちには土・日曜日は人はいない、夜も人はいないゴーストタウンになってしまうような気がするのです。市町村合併の中でそれぞれの区域をゾーン分けしていくことも必要かと思えます。

ただ商業は、まちの中の一部の部品であると思います。日常的に必要な、地域に根ざした岡谷の部品であり、部品の歯車一つ無くなっただけで、住んでいる人たちは非常に寂しい、つらい思いをします。

もちろん岡谷で働く場所もなくてはならないし、工業も大事だと思えますが、工業だけが盛んになっても果たしてまちに活気・賑わい（にぎわい）が生ま

(次ページへ続く)



イルフプラザ・カルチャーセンターの生涯学習活動風景

れるかということになると、ちょっと違うような気がします。

事業者の仲間たちも、この岡谷のまちを何とかしなければいけない気持ちがあり、自分たちのできることから何かしようという気運は、若手中心に高まっていますので、そういう意味で部品の一つとしての商業のあり方を考え、「楽しみ」「うるおい」のあるまちづくりを進めていくことが大事だと思っています。

ただ、当時と比べて何が違うかというと、「やる気のある商店主が少なすぎる」というのが一番だと思います。商店街が本通り、銀座通り、中央通りとあり、こんなに市内に広がっている所はないと思います。

逆にそれだけ賑やかなまちだったんですね。やる気のある商店主が集

まれる所だったと思います。今、私たちが考えていることは、起業へのハードルを低くして商業に興味のある人が、気軽に飛び込んでいけるような環境を整えていきたいと思っています。

維新塾でも、その

環境を整えるための事業を行う準備を進

めています。商売への取っ掛かりをつくったり、週末だけでも商売を試みたい人も組み入れていくことで、少しでも商売を身近に感じてもらい、その後の独立の手伝いや、そうした人たちをどこかに集積させたい。そして、そこが賑わってくれば自然と周りも賑わってくると思います。岡谷に来て、働いて、楽しみがあつて、帰りにここに寄ってあげれば楽しいなど、うるおいの部分を事業者としてつくっていき、岡谷独自の商業を展覧させていけたらと思います。

矢崎さん

今のように、中央通りの事が話題に出ると敏感に反応して、「中央通りをののために力を貸して」と言いたくなってしまうますが、お話の中で若い人たちが頑張つて何とかしようという気持ちがありましたので、非常に心強いと思いました。

おかみさんも微力ながら3年間活動してきましたが、中央通り全体



きょうこ 京子さん
やざき 矢崎

うという声を聞きますが、地区ごとに特色あるまちづくりを行い、他地区に負けない気持ちになれるような合併になれば良いと思います。

小口さん《進行》

岡谷の場合、機関車の役は工業に任せ、工業が発展すれば、おのずと商業も盛んになると思います。

岡谷のまちづくりは非常に難しいです。成功しているまちを見ると、歴史があり、城や有名な神社仏閣等を核にして成り立っています。

栄えた所は人が集まってくる所で、東京、名古屋、大阪など人口が多い所は自然に商店の活気が生まれてきます。

ある地域の商店街では一堂に食べ物屋さんだけを集め、そこに行けば大型スーパーに行くのと同じで、食べ物関係はすべて事足りるというまちづくりで成功しています。

普通は駅周辺に商店街があるわけですが、岡谷は商店街が分散している不思議な地域で、これは生糸の盛んな時代の象徴であると思います。

昨今、非常に厳しい時代だとは思いますが、一つ言えることは、まちおこしは誰かが必死にやらなければダメです。大変な道のりでも、そのうちに理解され人がついてくると思います。

小池さん

私の仕事の話になってしましますが、山の中で水産加工を各市場に卸す仕事をしています。いつも岡谷の工業の中では蚊帳の外に置かれて



けんそう 健蔵さん
こいけ 小池

これからはネットワーク化など、企業間あるいは産学官の連携をより密にしなから、「付加価値を持った開発型」の工業

争になつてくると、どうしても中小企業一社だけで立ち行かない部分が出てきます。これはネットワーク化など、企業間あるいは産学官の連携をより密にしなから、「付加価値を持った開発型」の工業



かづとし 藤森
ふじもり 藤森

います。当時は、塩嶺工業団地にハitekの団地をつくるということでしたが、なぜか魚屋さんが一軒入っている状況です。そういう状況下で、岡谷の特徴はわからないところもありますが、行政改革で岡谷保健所が諏訪保健所に統合されたことに伴い、湖北食品衛生協会と諏訪食品衛生協会が、先駆けて諏訪湖周で合体し諏訪食品衛生協会という新しい組織が生まれなければいけないという思いが芽生えてきたのだと思います。岡谷は製造関係、下諏訪・諏訪は宿泊関係、茅野は観光など特徴があるので、その特徴を十分生かせるよう、常に諏訪は一つということを中心で考えていかなければいけないのではなにかと思いますし、その中でも特性は十分生かせると思います。

ことにより商業へとつながっていくと思えますので、我々工業に携わる者としても頑張らなければならぬと思つていきます。岡谷は「シルク岡谷」の時代から、ものづくりによって発展してきたまちだと思つています。特に、高度成長期にはセイコー、ヤシカ、チノン、三協精機といった大手のメーカーがあり、そこから仕事をいただくという下請け的な枠組みの中で中小企業も成長してきたわけですが、ご承知のとおり状況は大きく変わってきており、ビジネスの視点は海外との競争も含めた、より広域的なものとなつてきています。そういう意味で合併を考えれば、諏訪は一つの地域として、日本を代表するような工業先進都市になつていかなければならないと思つています。実は、岡谷市には世界に通用するすばらしい技術を持った会社が結構あるんですが、これから海外や国内の他の集積地との競争になつてくると、

にステップアップしていかなければいけないと思つています。岡谷市には、テクノプラザおかやができましたし、県の精密工業試験場、創業支援センターなどもあり、この地域の工業の中心的役割を果たせる環境が整つていると思つています。また、日本は基本的にもものづくりによつて成り立つていく国だと思つますし、今、国内のものづくりがどんどん空洞化していることは、工業に携わるものとして本当に危機感を持つていかなければならないと思つます。これからは、子どもたちにもものづくりの喜びや楽しさを知つてもらえる機会をどんどんつくつていかなければと思つています。岡谷にはそういうフィールドがたくさんありますから、そういう点も生かしていきたいですね。

えられるということですね。藤森さん 一社でもすばらしい技術は持つていますが、そこへプラスアルファすること、より良いものができる可能性は大いに秘めていると思つています。よく、「諏訪の平らを歩けばできないものはない。」と言われます。弊社のあるお客さんが県外へ工場を出されたのですが、新しい仕事を話をするのに、諏訪地域であれば一日回ればたいの話を済んでしまふのに、そこだと全県歩くか近隣の他県まで足を伸ばさないと、なかなか良いパートナーが見つからないといった話を聞きました。それだけ諏訪地方は、工業集積が進んでいるということなので、それを生かさない手はないと思つています。山田さん 子どものころ、「岡谷は工業のまち」と勉強してきて、工業のまちで発展してきたことぐらいしか知らな

(次ページへ続く)



やまだ きみえ
山田 紀美恵さん

面において、もっとPRすれば良いと思います。

多くの人たちが集まれば、財政面でもうるおうと思います。

市長

やはり工業立市岡谷ということで、工業がしっかりとしないと、商業も元気が出てこないというメカニズムだと思います。

つたのですが、やはり製造業に関わっていない一般の人には、岡谷に高度のすばらしい技術があっても難しく分らないのが現状と思います。子どものものづくりとおっしゃっていましたが、子どもから身近に感じられるような形になってくれば良いと感じています。

一歩外から眺めるのではなくて、やはり自分たちもそれに関わっていくことで、身近に感じていけたらすばらしいと思います。

また、やまびこスケートセンターやカノラホールなどすばらしい施設があります。保育園でも子どもたちがスケート教室などを楽しみにしており、非常にすばらしい施設が身近にあり幸せなことだと思います。

諏訪湖周辺にも湖畔公園をはじめとし、湖と緑に囲まれた豊かな自然環境を持った地域なので、このような施設を岡谷だけでなく、岡谷市以外の人も来てもらえるよう、観光

時代の空洞化の中で工業が元気を出す施策として、旧通産省のスーパーデバイス産地形成の制度にのって、超精密加工技術の集積を図ってきました。

5年計画で次の段階に入っており、スーパーデバイスからスマートデバイスという一歩進んだ超精密加工技術のまちということで、これは中国・東南アジアには決して真似できないテクノロジであります。これらに対応する中小企業が市内でも出始め、完成品をつくり始めました。

完成品をつくるということは周辺の部品が相当必要となり、とかく岡谷は部品メーカーの工業都市とも言われていますので、ハイテク超精密加工技術の進歩により、ローテクですばらしい技術を持った企業の手助けにもなるなど、明るい一つの材料になってきています。

福祉面では、若いお母さん、若い

みなさんが安心して働け仕事に打ち込めるまち、すなわち、お年寄りが安心して暮らせ、老いることのできるまちでなければいけないと思っています。特別養護老人ホームをはじめ、旧保健所跡地には長野県下で初めてつくった複合型の介護施設ウェルハートおかができていますし、塩嶺病院の東側に特別養護老人ホームさわらびができました。若い人がしっかりと働けるまちは、

合併に対して期待する点

戸島さん

新しい市は諏訪大社を中心に、諏訪湖や自然に恵まれた市となります。それに、それぞれの地域が歴史・文化・伝統を持っていますので、特色あるまちづくりが期待できます。

幸い、各市町村には地域局を置くということから、この地域局を中心に各区がタイアップして、地域活性化のために、尽くしていかなければならないと思っています。

岡谷は合併すれば位置的に中心から外れますが、特色ある地域・安心して暮らせるまちをつくり、いざれ合併してくる町村の模範となるようなまちづくりをしたいと思っています。

今井さん

効率をより高めるための合併でもあるので、より効率化をしつつ、現在の資源を有効にどこまで生かせるか、ゾーン分け・ランドデザインを進めてほしいと思います。

お年寄りが安心して老いることのできるまちであると思っています。また、休日にお父さん・お母さんが揃って出かけ、子どもが喜ぶ場所として、イルフプラザ4階にこどものくにを開設しました。来年度は、小学校に低学年用プールもつくりたい。小さなお子さん、小学校の低学年のみなさんへの取り組みも始めていますので、ご意見をいただきたいと思っています。

岡谷に観光資源がないと言われる中で諏訪湖に面し、なおかつ諏訪地域を塩嶺から見る眺めは富士山も入り一番きれいだと思っています。そうした大切な資源がそれぞれの市町村にあるので、ゾーン分けにより有効資源を活用しながら、住みよいまちになるよう、ランドデザインをしっかりと持って有効的・効果的な市町村合併になってほしいと思います。

小池さん

イルフプラザ・カルチャーセンターのグループ「木彫りの会」に属し木彫を学習していますが、なかなか会をアピールする機会がありません。

合併すれば諏訪地域全域にアピールする機会も増え、交流等含めて非常に良いことだと思います。会員は辰野、下諏訪、諏訪、茅野、佐久からも参加しています。

現在、カルチャーセンターには約

160の生涯学習グループが登録されていて、それぞれ特色を持っています。きめ細かにグループを紹介し窓口を広げ、他市町村から一人でも多くの方が参加できるようにすれば、生涯学習を通して心豊かな文化都市形成ができると思います。

藤森さん

今、各地で盛んに合併が論議されていますが、今後どんな合併が進んでいけば、従来の枠組みとは異なる地域間競争という側面がますます強くなってくると思います。

そうした中で自分たちの住んでいく諏訪地域も、住んでいて良かったと思えるような魅力的なまちになっていかなければならないと思うし、そういう意味でも合併に対しては色々期待したいと思っています。

少し視点を変えてみれば、合併するということは新しいまちができるということですから、とても夢のあるすばらしいチャンスだと思います。身近な生活に密着した部分では、分権型ということで従来の行政サービスを落とさずにやっていたり、これはもちろん大切だと思いますが、将来諏訪地域の中に合併による相乗効果や一つのまちとして新たな価値観が生まれてくることも期待しています。

矢崎さん

話は少しそれるかもしれませんが今年には御柱祭です。私は御柱祭が好きで、山出しから里曳きまで参加して建御柱まで見たいと思っています。



はやし 新一郎市長
林 新一郎

御柱祭という行事そのものが諏訪を一つとしたものですので、御柱ということばを聞いただけで、この地域のみなさんの心は一つになるわけです。その中で、やはり自分の担当した柱は、他の柱よりちゃんと曳行したいという思いがあります。

今回の合併も何かこれに似ていて、合併といいつつも各市町村それぞれの特徴を出せたら良いと思います。この地域のみなさんは、御柱祭という大きなイベントを7年に一度行える、すばらしいエネルギーを持つた人たちなので、これを機会に合併意識が高まり拍車がかかれればと期待しています。今回の御柱祭が、私たちが諏訪が一つになる方向へと導いてくれることを願っています。

同じように、下諏訪のお舟祭りは下社で行われますが、6市町村の人々は当番の年が来ると地域の枠を越えて下諏訪に集まり、まさに諏訪は一つだと象徴するようなお祭りだと思

います。

何かあれば諏訪の人たちは一緒になつて、すごいことを行う潜在的な力はあると思いますので、合併もみんなで力を発揮して頑張れると思います。

山田さん

今まで各市町村が小さい枠組みの中で行ってきたことが、合併することで大きな枠組みとなつて、みんなできるということにはすばらしいことなので、合併に期待したいと思います。

また、小さい子どもを持つ親として、子どもたちが安全で健全に大きくなれることを期待すること、若い人たちが都会等に行き地元を離れてしまいが、その若い人たちがふるさと岡谷の魅力に惹かれて戻ってきてくれる、そして、小さい子どもたちが岡谷に誇りを持つてずっと住み続けていける素敵なまちをつくらせていけたらと思います。

小口さん《進行》

私は「子どもの将来を思わない親はいない。市民の将来を考えない首長はいない。」と思います。

特に、今回の合併は10年、20年先になって、岡谷のみなさんが住んでいて良かったというまちづくりをするための合併だということを、ご理解いただきたいと思っています。

合併しても、すぐには市民のみなさんの生活や行政サービスが極端に変わりませんが、子どもさんやお孫さんのために、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、あの方に良い決断をしてくれたと言われ、また、岡谷のまちが、さらに良くなり新しい活路が見いだせるまちになってほしいと思います。

市長

合併というのは、今までの住み慣れた自治体から新たな自治体をつくっていくという、やらなくても良い苦勞をやらなければいけません。

今現在、何の不自由もないという実感をお持ちだと思えますが、700兆円という大変な赤字国債により、国が三位一体の改革ということで、地方財政を締め付けることは間違いありません。合併をした都市と、合併をせずに自立の道を歩んでいく都市とは、将来必ず相当な差がついてしまうと思っています。

合併は「小異を捨てて大同につく」、我々は本当に自覚しなければいけないと思っています。

ふるさとの山はどこですか？と聞くと、岡谷の人も「八ヶ岳」と答えると思います。

ふるさとの湖はどこですか？と聞くと茅野の人も、ほとんどの人が「諏訪湖」と答えると思います。

諏訪湖と八ヶ岳が響きあう新しい都市を、みなさんでつくっていきましょう！